

Route 5

国道5号 札幌～小樽間車道4車線が全線供用

札幌と小樽をつなぐ国道5号は、小樽市朝里と銭函間(9.2)が片側1車線だったため慢性的な渋滞が発生。重要な幹線道路でありながらも、「利用しづらい」とドライバーの間では不評をかっていました。また、平成8年1月の豪雪により通行止めとなり復旧に多大な時間を要したこともあり、交通環境の改善が早急に求められていました。

こうした経緯を背景に小樽拡幅事業が平成7年に着手され、平成13年7月19日に車道4車線が全線供用開始。渋滞が改善されスムーズに車が流れています。

この地域は、海と山に挟まれた制約の厳しい地形にあり、工事区間はトンネル、橋梁、擁壁など構造物が多く施工されているのが特色です。張碓トンネルの拡幅では、新張碓トンネルがトンネル中心で27と接近し発破作業ができないため、大型掘削機械による掘削工法を採用。張碓橋は294という規模の大きな橋梁で、工事パーティ数や型枠など施工機材を十分に導入する



ことで、工程を大幅に短縮することができました。

4車線の供用により平均旅行速度も向上。小樽や後志地域の物流の効果を高め、地域の産業や経済の発展に大きく貢献すると同時に、観光にも大きく寄与することが期待されています。

Route 230

有珠山噴火により分断された国道230号の新ルート案決定

平成12年3月30日に有珠山が23年ぶりに噴火。西山西麓周辺に火口群が出現したことにより、国道230号は大きな被害をうけました。それは大量の降灰や路面の亀裂にとどまらず、国道230号上にも噴火口が出現し、自然の驚異をまざまざと見せつけられました。国道230号は虻田町市街地側と洞爺湖温泉町側を結んでいましたが、これが分断されたことにより現在は道道の豊浦町旭町と洞爺村香川間約15を、国道230号編入して代替ルートとして使用しています。

こうした状況をふまえ北海道開発局は平成13年6月1日、国道230号の新ルート案を発表しました。虻田町清水・大磯地区から洞爺湖温泉町珍小島(ちんこじま)地区までを新ルートとし、火砕サージや噴石区域を避け、全長約4.5(内トンネル2本)を予定しています。新ルート案は噴火による地殻変動が少なく、虻田町市街地と洞爺湖温泉地区を迂回することなく結び、道央自動車道と接続するという理由から選定されました。

安全性や利便性を最大限に配慮した新ルートの開通は、平成17年ごろを目指しています。



総距離816km 道南にいくつもの銀輪が輝いた「2001 ツール・ド・北海道国際大会」

日本で初めての本格的ステージレースとして昭和62年にスタートし、国内外から熱い注目を集めている「ツール・ド・北海道国際大会」。15回目を迎えた今回は平成13年9月12日から18日までの期間、函館市でのプロローグに始まり、札幌市でのクリテリウムまで816という史上最長の距離になりました。

出場20チームのうち海外からは、アイルランド、韓国、カナダ、オランダ、ドイツが参加。'99年に団体総合優勝を果たした強豪チームのアイルランドがアイルランドナショナルチャンピオンを送り込んでのレース出場。昨年優勝のプリズトン・アンカー、ミヤタ・スバル、シマノレーシングなど実力選手をしたがえた国内各チームの健闘ぶりも、みどころのひとつでした。

プロローグが行われた12日は台風15号の影響で路面が濡れ、1.5のコースも気が抜けない状態。この日は個人、団体ともドイツが制しました。13日の第1ステージは函館市役所前から北檜山町農村環境改善センター前まで、186のコース。アイルランドのナショナルチャンピオン、デヴィッド・マッキャンの力強い走りが印象的でした。14日は第2ステージで、今金町のデ・モレン(風車)前から岩内町の道の駅へ。184のコースを快走したのはやはりアイルランドの選手でした。第3ステージ、1周2.5のコースを24周するクリテリウムは、1

日岩内町岩内温泉周辺道路で。標高差は富士山の5合目にも匹敵するという難コースでした。通常、自転車では渡れない白鳥大橋を渡った第4ステージ。16日、倶知安町文化福祉センター前をスタートし「ニセコお花畑」の山岳ポイントで歯をくいしばり、白鳥大橋を渡って室蘭市入江臨海公園前へ。17日第5ステージは登別市役所から、大会最高峰のオロフレ峠を越え札幌市の藻岩山山頂へ。最終ステージ18日は札幌で、1周3の円山公園周回コースを20周するクリテリウム。鈴木真理(シマノ)が日本人選手唯一ステージ優勝を果たしました。

「2001 ツール・ド・北海道国際大会」はデヴィッド・マ

ッキャンの活躍ぶりが目立ち、アイルランドチームが圧倒的な強さを示しました。来年は道東で開催される予定です。

